

## 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

**演 題** 前歯部単独歯欠損修復

**演者名** 関 喜英

**日 付** 2011年 1月 25日

### keyword

1. 前歯部単独インプラントのリスク診断と適応症
2. オールセラミック接着ブリッジ
3. ミニマルインターベンション

### 抄 録

単独歯欠損部位に対する補綴治療のオプションとしては、ブリッジ、パーシャルデンチャー、インプラントがある。なかでもインプラントによる修復を第一選択とする場合が、術者、患者ともに増えてきているのではないだろうか。しかし、上顎前歯部は、抜歯後の唇側の骨吸収が大きく、GBRや結合組織移植などの、より強い侵襲が必要となる場合も多い。また、隣在歯を含めた歯肉や歯槽骨の状態によっては、リスクが高い処置にもなりうる。したがって、不可逆的な処置であるインプラントを選択する場合には、より慎重な診査、診断が求められるし、患者にも十分な説明が必要である。そして、症例によっては、必ずしもインプラントを第一選択としない場合もある。

今回の発表では、前歯部単独歯欠損に対して、インプラントを植立した2ケースと、オールセラミック接着ブリッジを行った1ケースを提示する。

自分は、前歯部のインプラントの経験が少なく、今回発表するケースも大変拙いケースであるので、ぜひ諸先生方の忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。